

社会的ネットワークの親密度と社会的スキルとの関連

The Relationships between Intimacy in Social Network and Social Skills

河野 稔^{*1}

Minoru KAWANO^{*1}

^{*1} 兵庫大学健康科学部

^{*1} Faculty of Healthy Science, Hyogo University

Email: kawano@hyogo-dai.ac.jp

あらまし：情報モラルなどに関する教育への活用を目指し、円滑に維持できる人間関係の規模をあらわすダンバー数をもとに、社会的ネットワークにおける親密度を測定するための調査を開発した。本稿では、調査項目を再検討するとともに、社会的スキルやソーシャルメディアの交流状況との関連を分析した。その結果、社会的スキルの高い者はより規模の大きい信頼感のある関係を構築していることが示された。

キーワード：情報モラル教育、社会的ネットワーク、社会的スキル、ソーシャルメディア

1. はじめに

ソーシャルメディアでは多くの相手との交流が行われている。しかし、その規模は対面による人間関係よりも規模が大きく、見ず知らずの人物ともつながることなどが問題視されている。

人間関係の規模について、類人猿の脳新皮質の脳全体に占める割合と群れの平均的な個体数との関係から、人が円滑な人間関係を維持できる規模は約150人との仮説をDunbarは提唱し、「ダンバー数」と名付けた⁽¹⁾。また、人の社会的ネットワークの親密度は5人、15人、50人、150人と約3倍ずつの同心円状になっているとも指摘している。

本研究では、ダンバー数のような社会的ネットワークにおける親密度を社会性の発達の指標として捉えることが、情報モラルや情報コミュニケーションに関する系統的な教育に有用ではないかと考え、高校生や大学生への調査を実施し、社会的ネットワークの親密度に関する尺度を開発した⁽²⁾。そこで本稿では、これまでの社会的ネットワークにおける親密度の尺度を再検討し、ほかの社会性の指標として社会的スキル（対人関係を円滑に運ぶための技能）との関連を検討した。さらに、ソーシャルメディアにおける交流との関連性についても報告する。

2. 方法

2.1 調査時期および方法

2017年5月に、授業時間を利用して質問紙調査を実施した。調査は無記名で、インターネット上でGoogleドライブによる回答フォームを利用した。

2.2 調査対象者

調査対象者は、関西圏のA大学1～4年生であった。回答者は126名（男性35名、女性91名）で、平均年齢は18.55歳（SD=.74）であった。

2.3 調査項目

社会的ネットワークにおける親密度（27項目）

実生活の多様な場面における人づきあいに関係す

る人数を尋ねる20項目で構成された尺度を再検討し、「あなたが、あだ名や呼び捨てで呼ぶ人の数は？」などの項目を追加して、27項目を用意した。「あてはまる人数を選択欄の中から一つだけ選んでください」と教示した。なお、質問における「人」は、芸能人のように一方的に知っているだけで会話をしたことがない人物は含めないよう指示した。

選択肢は、人の社会的ネットワークが約3倍ずつ大きくなることに着目し、数学的な整合性をもたせるため、10の平方根（約3.16）を社会的ネットワークの親密度の倍率とした。各親密度における人数の概数を1.5人、4.7人、15人、47人、150人、474人などとして、10の4乗根（約1.78）を用いて各概数を中心とする範囲を選択肢とした。「0人（0点）」、「1～2人（1点）」から「844～2667人（7点）」、「2668人～（8点）」の9件法で回答を求めた。

社会的スキル（18項目）

対人関係を円滑に運ぶために役立つスキルである社会的スキルについて、KiSS-18⁽³⁾を用いた。「いつもそうでない（1点）」から「いつもそうだ（5点）」の5件法で回答を求めた。

ソーシャルメディアにおける交流（9項目）

LINE, Twitter, Facebookの各ソーシャルメディアに関して、対面で会ったことがない人も含めて「友人」として登録している人数を、社会的ネットワークの親密度と同じ9件の選択肢に「使っていない」を加えた10件法で回答を求めた。

また、各ソーシャルメディアについて、使用する頻度、ソーシャルメディア上での人のつながりの重要度をそれぞれ5段階で評定させた。

3. 結果と考察

3.1 社会的ネットワークにおける親密度の再構成

社会的ネットワークの親密度に関する27項目について、因子分析（重み付け最小二乗法、プロマックス回転）を行った。固有値の推移および解釈可能

性から2因子を仮定し、負荷量が.40に満たない項目を除外して、最終的に2因子22項目が得られた。因子分析の結果を表1に示す。

第1因子は、個人的に嬉しいことや悲しいことの告白や金品の貸し借りについての14項目で構成されていることから、「信頼感のある関係」と命名した。第2因子は、名前や顔がわかる程度の広く浅い付き合いについての8項目で構成されており、「気兼ねのない関係」と命名した。なお、Mann-WhitneyのU検定の結果、2因子とも男性の親密度が女性より高かった($p < .01$)

3.2 社会的スキルとの関係

社会的スキルの全18項目を合算した尺度得点の平均値(55.19点)以上の者を上位群(67名)、平均値未満の者を下位群(59名)に分類し、社会的ネットワークの親密度の各因子との関連を分析した。Mann-WhitneyのU検定の結果、上位群での「信頼感のある関係」因子の親密度が有意に高いことがわかった($p < .05$)。また、Pearsonの相関係数を求めたが有意な相関はみられなかった。つまり、社会的スキルが高い者については信頼感のある人間関係の規模がより大きい傾向にあることが示唆された。

3.3 ソーシャルメディアにおける交流との関係

Pearsonの相関係数を算出したところ、2因子ともLINEとは中程度または弱い正の相関が認められた($p < .01$)。Twitterでは「気兼ねない関係」との弱い正の相関のみ示された($p < .05$)。したがって、社会的ネットワークの親密度はLINEでの他者とのつながりと関連があることが示された。

4. まとめ

今後は、小学生や中高生にも調査を実施して各発達段階における親密度の質的・量的な発達について検討するとともに、集団形成に関わる社会性の尺度との関連性を明らかにしたい。

参考文献

- (1) Dunbar R.: “How Many Friends Does One Person Need?”, Faber and Faber (2010)
- (2) 河野稔, 村田育也, 阿濱茂樹, 長谷川元洋: “社会的ネットワーク親密度の尺度構成の試み”, 教育システム情報学会2016年度第6回研究会研究報告, pp. 159-166 (2017)
- (3) 菊池章夫: “思いやりを科学する”, 川島書店, 東京 (1988)

表1 社会的ネットワークにおける親密度に対する因子分析の結果(プロマックス回転後)

項目	F1	F2	M	SD	概数
第1因子: 信頼感のある関係 ($\alpha = .940$)					
今年一番にうれしいことがあったときに、そのことをあなたに伝えてくれる人の数は?	.973	-.186	2.39	1.19	7.42
失敗をしたとき(テストで悪い成績をとったときなど)、それをあなたに打ち明けてくれる人の数は?	.876	-.010	2.33	1.17	6.96
あなたに迷惑をかけてはいけな思ってくれる人の数は?	.874	-.141	2.14	1.19	5.59
ほかの人から借りた授業のノートをなくした人がいます。そのことをあなたに打ち明けてくれる人の数は?	.848	.004	2.13	1.09	5.54
今年一番にうれしいことがあったときに、そのことを伝えたいと思う人の数は?	.843	-.190	2.33	1.26	6.96
あなたが失敗したときに、あなたをかばってくれると思う人の数は?	.775	.054	2.20	1.22	5.96
ほかの人から借りた授業のノートをなくしてしまいました。そのことを打ち明けられる人の数は?	.694	-.031	2.07	1.10	5.15
失敗をしたとき(テストで悪い成績をとったときなど)、それを打ち明けることができる人の数は?	.638	.043	2.25	1.26	6.30
将来の夢をあなたに打ち明けてくれる人の数は?	.624	.181	2.38	1.14	7.35
ジュースを買おうと思いますが、財布を忘れました。その場に一緒にいたら、お金を貸してと頼める人の数は?	.615	.224	2.24	1.20	6.24
あなたがハンカチを忘れたときに、ハンカチを貸してくれる人の数は?	.595	.218	2.52	1.31	8.67
自分の将来の夢を相談できる人の数は?	.593	.069	2.33	1.25	6.96
あなたは、好きな人ができて、どうしたらよいか悩んでいます。そのことを、相談できる人の数は?	.568	.065	1.89	0.85	4.17
好きな人ができて、どうしたらよいか悩んでいる人がいます。そのことを、あなたに相談してくれる人の数は?	.568	.233	2.16	0.93	5.69
第2因子: 気兼ねのない関係 ($\alpha = .918$)					
相手の顔を見たら、名前(愛称なども可)がわかる人の数は?	-.273	.900	4.00	1.31	47.43
顔を見たら、今までに会ったことがあるとわかる人の数は?	-.155	.881	4.55	1.40	89.10
あなたの顔を見たら、名前(愛称なども可)を思い出してくれる人の数は?	.073	.763	3.59	1.32	29.49
あなたを、あだ名や呼び捨てで呼んでくれる人の数は?	.052	.737	3.56	1.24	28.44
会ったとき、どのような話し方をすればよいかすぐにわかる人の数は?	.087	.717	3.59	1.35	29.49
あなたが、あだ名や呼び捨てで呼ぶ人の数は?	.049	.706	3.60	1.20	29.77
偶然、ある人を見かけました。その人はまだあなたに気付いていません。そのとき、あなたから声をかける人の数は?	.202	.632	2.79	1.13	11.83
偶然、ある人があなたを見かけました。あなたはまだその人に気付いていません。そのとき、あなたに声をかけてくれる人の数は?	.277	.619	2.90	1.03	13.32
因子間相関		.652			